

令和5年 12月定例会 市長提案説明

12月定例会の開催に当たりまして、所信の一端を申し上げますとともに、今議会に提案いたしました、議案の概要につきまして、ご説明申し上げます。

はじめに、10月5日に本市の「自治会の連合体が支える公民連携まちづくり QURUWA戦略」が2023年度グッドデザイン賞において「グッドデザイン金賞・経済産業大臣賞」を受賞いたしました。

この受賞は、本市とQURUWA7町・広域連合会との共同受賞で、公・民がそれぞれの立場を活かして協働することで創造性が発揮されている点が評価されたものでございます。

引き続き、QURUWA地区における公民連携まちづくりを推進してまいります。

続いて、11月6日に、開催された一般社団法人プラチナ構想ネットワーク主催の「プラチナ大賞」において、本市の取り組みがシェアリング推進賞を受賞し、「プラチナシティ」として認定されました。プラチナシティとは、地球が持続し、豊かで全ての人の自己実現を可能にする社会を目指すもので、本市は、公共空間、まちづくりマインド、モビリティ、エネルギーのシェアリングの取組が認められたものであります。

今後も、地域の持つ力で対応し暮らしを良くしていくため、このシェアリングをキーワードとした取組を進めたいと思います。

11月7日には、LGBTQ・性的マイノリティのかたが働きやすい職場づくりの実現に取り組む企業・団体を評価する「PRIDE指標2023」において、岡崎市が最高評価の「ゴールド」を獲得いたしました。自治体としては愛知県内で初、全国で2例目の認定となります。

今までの本市の性的マイノリティへの取り組みが認められたものと大変うれしく思っております。

また、本年度から始まった、環境省が民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を認定する「自然共生サイト」として、「鳥川ホタルの里」が10月25日に認定されました。

鳥川ホタルの里は、市民の皆様がゲンジボタルを通じて豊かな自然に触れることができる地区であり、長年にわたり地域の皆様や支援者によって保全・整備されていることが評

価され、本市の第1弾として認定されました。

本市には、優れた自然環境を有し、市民の皆様によって、生物多様性の保全が図られている区域がいくつもございますので、今後とも「自然共生サイト」の認定を推進してまいります。

次に、マイナンバー情報総点検の結果についてであります。

全国的にマイナンバーの紐付けに誤りのある事案が複数発生していることを踏まえ、総点検と再発防止を強力に推進することを目的として、本年6月21日にデジタル庁にマイナンバー情報総点検本部が設置されました。

本部では、各制度の現場におけるマイナンバーの紐付け作業の実態把握が行われ、その結果を踏まえ、個別データの点検を実施することとされました。

本市におきまして、対象とされた身体障がい者手帳情報について点検を実施した結果、紐付けに誤りはありませんでしたので、市民の皆様には、ご安心していただきたいと思っております。

次に、明日、12月2日の土曜日に、長久手市の愛・地球博記念公園において、「愛知万博メモリアル第16回愛知県市町村対抗駅伝競走大会」が開催されます。前回大会では、本市代表チームが第3回大会以来の優勝を果たしました。明日の大会に出場する選手も各世代を代表する有望な選手ばかりです。連覇を期待し、全力で応援したいと思っております。テレビ中継もされる予定でありますので、皆様も応援をよろしくお願いいたします。

続いて、中国・杭州市で開催された、アジア最大のスポーツの祭典・「第19回アジア競技大会」が10月8日に、「第4回アジアパラ競技大会」が10月28日にそれぞれ閉幕しました。このアジアパラ大会では、本市出身の山本萌恵子選手が陸上競技 女子1,500メートルで見事優勝を果たされました。今後ますますのご活躍を期待しております。

さて、大会旗が、第20回大会開催地である、愛知・名古屋に引き継がれ、大会の機運が今後ますます高まってまいります。9月の大会組織委員会の理事会において、野球の会場として中央総合公園の野球場が仮決定されたことにより、本市では、バレーボール、アーチェリー、野球の3競技が決まっており、またパラスポーツのバレーボールとアーチェリーの会場となる予定です。大会が開催される2026年に向け、準備が本格化し、来年度より、順次、施設の改修が始まってまいります。

アジア最高峰の競技を間近で感じられる絶好の機会となりますので、利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

次に、秋に実施いたしました、さまざまな催し物についてご報告を申し上げます。

10月21日、22日に、本市の下水道事業100周年を記念し、中部地方初となる「マンホールサミット」を、市民会館、籠田公園及び中央緑道から桜城橋にかけて開催いたしました。過去最大規模となる151種類のデザインマンホールふたの展示や、熱烈なファンによるリレートークイベント、グッズ販売などの催しに、全国から約1万3千名のかたにご来場いただき、普段の生活では意識することの少ない下水道の役割などについて理解を深めていただいたほか、本市の魅力発信に繋がったものと考えております。

10月28日に開催いたしました家康行列は、地元住民及び関係者の皆様のご協力のおかげで、無事に開催することができました。今回は、例年の市民キャストの皆様に加え、大河ドラマ出演者4名のご参加をいただき、これまでにない注目度のなか、NHKのライブ配信もあり、伝統ある本市の家康行列を全国に知っていただく絶好の機会となりました。市民の皆様には、交通規制等、ご不便をおかけしましたが、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。ご尽力をいただきました関係者の皆様を含め、深くお礼申し上げます。

そして、家康行列にも登場していただいた4名のキャストが出演中の大河ドラマ「どうする家康」は、最終話まで3話となりました。これらの盛り上がりを受け、大河ドラマ館も11月23日に来館者数50万人を達成し、大いに賑わいを見せているところです。

自動運行バスの実証運行につきましては、10月28日から11月5日の9日間、国土交通省の採択を受けて、パークアンドライド促進による渋滞緩和に向けての、実証実験を行いました。市役所西立体駐車場及び籠田公園地下駐車場から自動運転バスで岡崎公園や大河ドラマ館に最寄りのりぶら駐車場までを結ぶ運行ルートで、総計368人のかたにご利用をいただきました。中央総合公園など、もう少し離れた場所からのパークアンドライドや、地域内交通への将来的な活用を検討するための第一歩としたいと思います。

地域経済の活性化及び地消地産の推進を図るため、11月4日、5日の両日、乙川河川敷において2023岡崎城下家康公秋まつり商工フェア及び農林業祭を、4日には一万人鍋を開催いたしました。

今年度は、地域店舗ファンづくり推進事業に登録した事業者「家康印」による、本市の

魅力ある物産品、特産品の展示、販売をしていただきました。

さらに、ステージイベントの景品として、会場内で利用できるカード型通貨「家康エビ」を発行し、来場者に各店舗でご利用いただきました。

引き続き、12月末日まで、市内の協力店や事業所でも利用可能となっておりますので、市内店舗の回遊機会の創出や地域経済の活性化につながるものと考えております。

農林業祭では、各ブースから魅力ある岡崎の農林水産物の展示・販売を行い、コロナ前を凌ぐ活気あるイベントとして、多くのかたにご来場いただき、岡崎やゆかりのまちの農産物など魅力を楽しんでいただきました。

また、新たに開催しました、どうするNABE-1（ナベワン）岡崎城グランプリ・一万人鍋では、出場された23チームが、No.1を目指し、岡崎の農産物や地域の特色を活かす、工夫を凝らした鍋を、1万5千食以上、振舞っていただきました。

岡崎市産の食材を使用し、みんなで鍋を作り、みんなで食べ、地消地産や食育の実践となったことで、市内農産物への愛着や理解を深められたと考えております。

来年1月8日には、投票で選ばれた3チームによる決勝戦を開催しますので、ぜひ楽しみにしていただきたいと思っております。

これからも、農の持つ魅力の輝きを放ち続けられるよう、みなさんと連携・協働しながら農業を総合的かつ計画的に推進してまいります。

11月16日から19日までの日程で、日本で開催されたラリー最高峰の大会・WRC世界ラリー選手権 フォーラムエイト・ラリージャパン2023が、昨年に引き続き、愛知県・岐阜県を会場とし、開催されました。

本市では、11月18日に、世界各地で転戦してきたラリーカーが、額田地区のスペシャルステージと中央総合公園のスーパースペシャルステージを舞台に疾走するとともに、移動区間であるリエゾンでは、市内の一般道でも走行しました。

市内外を始め、世界各国から多くの観客が本市にお越しいただき、競技会場となった額田地区や中央総合公園、別会場の2か所に設けたパブリックビューイングや沿道にも多くの観客にお越しいただきました。この日は本市を含むすべての会場で、合計5万人を超えるかたに世界レベルの迫力を体感していただきました。

会場内では、ラリーカーなどの車両の展示や飲食エリア、公式グッズ販売ブースなどを設置し、特に中央総合公園では、自動車に関する展示を集中させたクルマつりゾーンや多くのタレントが登場するメインステージを設けるなど、ラリーや自動車のファンだけで

なく、多くのかたが1日楽しめるイベントになりました。

このラリージャパン2023は、大会期間中愛知、岐阜で約53万6千人を超える来場者があり、世界規模の大会の熱気を感じることができたと実感しております。今後も引き続きこのような大会を開催し、本市のスポーツ振興のみならず、地域の活性化につなげてまいります。

それでは、本議会に提案いたしております議案について説明させていただきます。

まず、条例議案でございますが、制定条例といたしましては、農業集落排水事業に地方公営企業法の規定の全部を適用することに伴い、農業集落排水事業の計画処理区域等を定めるなど、所要の整備を行う「関係条例の整備に関する条例」1件でございます。

次に、改正条例といたしましては、福岡南保育園の改築工事を始めとする公共施設の整備に当たり、市産材を的確に調達できるよう、基金の原資金を積み増す「市産材調達管理基金条例の一部改正」、人口減少による地域コミュニティの低下など、市街化調整区域における諸課題の解決を図るため、一定の要件を満たす区域を指定し、当該区域において建築できる用途などを定める「開発行為の許可等に関する条例の一部改正」、南公園の整備期間中における閉園に伴い、園内の有料公園施設に係る規定を削る「都市公園条例の一部改正」など7件で、合わせて8件を提案させていただいております。

その他議案といたしましては、旧・教育文化館等の解体工事に関する「工事請負の契約」、岡崎駅南の土地区画整理事業に伴う「町及び字の区域の設定」など、8件を提案させていただいております。

続きまして、補正予算議案であります。一般会計の補正は、52億4,001万2千円の増額、特別会計は5億6,905万8千円の増額、企業会計は、5億3,242万5千円の増額でございます。

一般会計の主なものとしては、総務費では、「岡崎市公用車EVカーシェアリング事業」を実施するため、貸出し公用車に電気自動車2台を先行導入するための賃借料の計上。

民生費では、国の「デフレ完全脱却のための総合経済対策」により、物価高騰による低所得者の負担を軽減するため、住民税非課税世帯1世帯当たり7万円の生活応援金の給付を行うための給付事業費の増額、障がい者の相談支援事業等について、消費税の課税対象

であることが判明したことに伴い、消費税相当額を受託事業者に支払うための補償金の計上。

当初見込みを上回ることによる、障がい児通所給付費、子ども医療扶助費などの増額。
衛生費では、岡崎市医師会が運営する夜間急病診療所において、受診者数の減少による救急医療体制運営補助金の増額。

接種者数が当初の見込みを上回るための带状疱疹予防接種委託料の増額。

申請件数が見込みを上回ったことによる、家庭用LED照明器具等買替費補助金の増額。

農林業費は、新規就農者の確保、育成を図るため、研修農場となるいちごハウスの整備費用に対する補助金の計上。

6月2日の大雨により被災した農業者に対して、農業用機械等の修繕費等を支援するための補助金の計上。

商工費は、先般、市議会4会派の連名で、燃料価格高騰による影響を受けながらも街路灯の維持管理を行う商店街を支援するための要望書をいただきました。本市といたしましても、市議会の皆様の御要望を踏まえ、国の交付金を活用し、2年分として街路灯1本あたり5,000円の電灯料の支援を行うための費用を計上しております。

土木費では、国庫補助の追加配分に伴い、事業進捗を図るものとして、市道羽根小学校西線などにおける道路整備工事請負費などの計上。

教育費は、10月12日の火災により被災した岩津小学校校舎の復旧に要する工事請負費の計上。

令和6年3月に閉鎖予定の南公園グラウンドの代替施設として、ソフトボールが一面できる運動場を美矢井橋河川緑地運動場に整備するための工事請負費を計上しております。

南公園につきましては、令和6年4月から3年間、工事のため閉鎖させていただくこととなります。南公園をご愛顧、ご利用いただいている皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、できる限り工期を短縮することや安全確保のため、やむえないこととご理解賜りますようお願い申し上げますとともに、3年後には市民の皆様のご期待にお応えできるものとして、再開させていただくことを改めてお約束申し上げます。

次に、繰越明許費ではありますが、地域福祉センター施設整備事業を始めとする事業につきまして、それぞれ年度内完了が見込まれないことから、繰越しをお願いしております。

また、債務負担行為につきましては、市議会だよりの作成に要する経費を始め46件の事項につきまして、それぞれ令和6年度当初予算に先立ち契約を早期に進めるため、債務

負担行為の追加をお願いするものでございます。

以上が、今議会に提案をいたしました議案の大要であります。

さて、11月1日、2日に渡り、宇都宮市で開催された「中核市サミット2023in 宇都宮」において、パネルディスカッション「脱炭素化で「未来世代につなぐ」まちづくり」のパネリストとして参加をいたしました。

コーディネーターからは、徳川家康公生誕の地ならではの粘り強さを感じる、との評価を始めとして、脱炭素先行地域事業では、地域が一体となった取り組みや自動車産業が盛んな地域ならではの、電気自動車の使用済みバッテリーの活用、地域新電力会社である岡崎さくら電力を核とした電気や資金の循環、地産地消などに評価をいただきました。

次に、家庭ごみの分別区分の変更についてです。

「環境共生都市 岡崎」の実現のため、限りある資源の有効的な利用を推進し、ごみの削減へと繋げることを目的として、令和6年1月から家庭ごみの分別区分を変更し、環境負荷の少ない循環型社会を構築してまいります。

これまで容器や包装類に限定していたプラスチック及び紙の分別範囲を広げ、素材そのもので分別することで、リサイクルの促進によるごみの減量を図り、さらに、市民の皆様にとって「わかりやすく優しい分別」を目指します。

今回のような、家庭ごみの大幅な分別区分の変更は22年ぶりとなるため、市民の皆様が混乱することがないように、本年8月から職員が各町内会などに赴き、直接対話をさせていただき、分別へのご協力をお願いしているところでございます。

岡崎ビジネスサポートセンター・通称 オカビズが平成25年10月の開設から10年の節目を迎えました。

中小企業等の売上アップに特化した産業支援機関として、初年度相談件数が当初目標を大きく上回る1,404件を達成して以来、開設5年目には累計相談件数1万件、開設9年目には累計相談件数2万件を達成しております。これらの相談支援実績からオカビズが産業支援機関として地域の皆様に支持をされているものと確信しております。

また、来年の1月27日には10周年記念として事業者との交流イベントを予定しており、これからも中小企業等の皆様への支援を全力で行ってまいります。

次に、新型コロナと季節性インフルエンザの感染症対策についてであります。

本市の新型コロナの発生状況は、全国同様、減少傾向が続いています。一方、季節性インフルエンザは、11月9日に愛知県で4年ぶりとなるインフルエンザ警報が発令されました。本市においても、依然として多くの患者が発生している状況です。

新型コロナワクチン接種につきましては令和5年秋開始接種を進めており、11月22日現在で約5万3千回接種を実施しています。

接種は来年3月31日まで実施がされますが、新型コロナはこれまで年末年始に流行しております。接種を希望されるかたは年内の接種をご検討いただきたいと思います。

また、来年1月4日からは、新型コロナワクチンコールセンターの電話番号や開設日を平日のみに変更いたします。

そして、季節性インフルエンザ対策としまして、定期接種の対象となる65歳以上のかたなどに加え、昨年度に引き続き、受験や就職などを控えている中学3年生と高校3年生の年齢に相当するかたに対し、接種費用の一部を助成する事業を実施しております。

新型コロナが5類に移行し、初めて迎える年末年始を楽しみにしてみえる市民の皆様も多くお見えのことと思いますが、引き続き、感染状況や感染リスクに応じた感染防止対策に御協力をお願いいたします。

あわせて、今年度からスタートしている带状疱疹ワクチン予防接種費用の一部助成については10月末までに延べ4514人の市民にご利用いただいていることをご報告申し上げます。

次に、9月1日現在の全市民へ配付いたしました「おかざき農業応援チケット」につきましては、多くの方々に各産地直売所や、農林業祭などに訪れ使用していただいております。

本市の農産物を多くの方々にご賞味いただけるよう、チケットを使用できる店舗について、随時、登録店を増やし、市ホームページで紹介しております。

配達による販売をされている店舗もありますので、ぜひ多くの方々に岡崎の新鮮な農産物の魅力を感じていただきたいと思います。

また、おかざき農業応援チケットの使用期限は、来年2月29日までとなっておりますので、ぜひこのチケットを使用して、岡崎の農産物を食べて、農業を応援していただき

いと思っております。

11月25日から、岡崎の夜を彩る光のイベント「おかざき宵まいり」がスタートいたしました。12月24日までの毎週土日、岡崎公園から松應寺までの間を、イルミネーションや提灯、行燈により演出し、家康公の生誕を祝う雰囲気盛り上げてまいりたいと思っております。

また、12月23日から26日の4日間、岡崎城天守閣に本市の文化や歴史、伝統産業「三河花火」などをモチーフにしたデジタルアートコンテンツのプロジェクションマッピング映像を投影します。

あわせて、岡崎城大手門にもプロジェクションマッピング映像を投影し、菅生川端石垣では、デジタルライトアップを開催しますので、たくさんの方々にご覧いただき楽しんでいただくとともに、夜間の地域への回遊を図って消費拡大を目指していきたいと考えております。

大河ドラマ館についてでございます。10月24日から「家康公と三河武士の絆」をテーマに、家康公および三河武士のふるさと・岡崎らしい3回目の展示リニューアルを行いました。本市の歴史観光のけん引役として、多くの方々にお越しいただき、満足していただけるような企画を引き続き打ち出し、閉館となる来年1月8日まで全力で盛り上げてまいります。

参考に、大河ドラマ館の来館者が50万人に到達した時期までの岡崎城への入場者数は46万人となっておりますことをご報告申し上げます。

また、待機児童対策につきましては、このたび3箇所の小規模保育事業所が令和6年4月から開所することとなりました。

最後に、東岡崎駅についてです。第2期整備着工に伴い、12月4日から東岡崎駅北口、東口駅前広場が閉鎖となります。一般車につきましては家康公像下の明大寺交通広場を、タクシー乗り場につきましてはこれまで一般車乗降場としてご利用いただいていた東口駅前広場を、それぞれご利用いただくこととなります。市民の皆様にはご不便おかけいたしますが、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

このように各地の拠点整備を着実に進めていくとともに、名古屋三河道路をはじめとする未来に向けてのインフラ整備や防災対策のため国や県への要望活動を積極的に行っています。一つの成果として、6月に大きな被害が生じた六斗目川合流部付近の乙川のしゅん

せつを国の交付金を獲得し、県において実施していただくことになりました。

以上、ご説明を申し上げますとともに、提出をいたしております、諸議案につきまして、よろしくご審議の上、ご議決を賜りますようお願い申し上げます、説明を終えさせていただきます。ありがとうございました。